

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990600074		
法人名	社会福祉法人大恵会		
事業所名	グループホームひなた		
所在地	栃木県日光市塩野室町1902-125		
自己評価作成日	平成29年12月28日	評価結果市町村受理日	平成30年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/wamapp1/hvoka/003hvoka/hvokanri_nsf/ahvokaTop?OpenAgent
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)
訪問調査日	平成30年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多くある自然を活かし、畑を作りそこでできた野菜を収穫し食事に使っている。その畑仕事から食事作りまでを、利用者様にもお手伝いいただいている。運動にも気分転換にもなる。散歩の際は花摘み等が近くでできる環境も生かしている。頻繁にドライブや外出を行い、利用者様がこれまで築いてきた人間関係が途切れないように、思い出の場所へ行ったりお店に寄ったりしている。職員は利用者様にとって身近な存在として、できることに着目することはもちろんのこと、過去にはできていたが現在では難しくなってしまったことについても、潜在的な能力として断続的に行えるように能力の継続を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・新しく作成した事業所理念「みんなで作ろう明るいひなた」を職員で共有し、理念の実践に職員だけではなく利用者や家族とともに取り組み始めている。
- ・職員と利用者が一緒に野菜を育て収穫したり、食事の配膳の準備をしている。また、誕生会で外食をしたり、バーベキューやピザパーティーを行なうなど、食事を楽しむための工夫をしている。
- ・利用者同行での食材の買い出しや、毎月必ず1回の外食、地域でのイベントへの参加、法人内での行事への参加等、日常的に外出が出来るよう、限られた条件の中で確実に実施するようにしている。
- ・事業所内の雰囲気が良く、何よりも、利用者全員が生き生きと、明るく楽しい表情をして生活している様子が見られた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解や応援が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が健康で明るく過ごせるように、職員で話し合い、先日には『みんなで作ろう明るいひなた』をひなたの新たな理念とした。法人の基本理念である『人間性の尊重とノーマライゼーション』にも則り、楽しい居場所作りを実践している。	平成30年度に向けて、新たに事業所理念を見直した。利用者の思いを家族とともに職員が把握し、楽しい居場所を作ろうと、月1回の会議の際に必ず理念を共有するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりを持つために、地域行事への参加はもちろん、共同ゴミステーションの清掃を行うなど、積極的に交流を図っている。	現在、自治会はないが、地域を管理するための集まりはある。近隣住民の方からは非常時には協力いただけるとの了解を得ている。地域行事である餅つきやどんど焼きや敬老会等に参加し、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所が認知症の専門的な事業所であることを、運営推進会議のメンバーを通して発信し、相談所でもあることを周知してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報を共有するために利用者様の状況、参加した行事や事故、ヒヤリハットは全て運営推進会議で報告している。その報告に基づいて意見交換をし、利用者様の支援に活かしている。	利用者の状況及び事業所活動に関する報告がされ、意見の交換をしている。民生委員からの野生動物出没の情報により外出を控える等、危険回避に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして、日光市介護保険課の方に会議に参加していただいている。	情報交換等は少ないが、事故等報告時には連携して即対応している。また必要な情報等は、メールにてその都度通知されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で身体拘束についての研修を行ったり資料を配布するなど、学ぶ機会を設けている。なお、日中の玄関の施錠はしていない。	昼間、玄関の施錠はしていない。法人内の研修会が年に4回あり、事業所から2名ずつ参加し、身体拘束について学ぶ機会となっている。研修内容は、報告書で職員に周知するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『虐待』がどこまでなのかを理解できていない職員もいるので、正しい理解を得るために研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて地域包括支援センター等に相談しているが、職員の学ぶ機会は特に設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所希望のご家族様には、まず来所していただき施設の雰囲気を感じていただくと共に、契約書、重要事項説明書を配布、説明している。その日以外も随時疑問等受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置や窓口を作り対応している。またご家族には、面会の帰りに見送りをし、その時にご要望があるか尋ねるようにしている。それらのご意見は運営会議で議題にあげる。	敬老会行事に家族参加を促しているが、参加家族は少ない。また家族の面会が減っており、意見箱への投函もなく、意見要望等が十分に得られていない。	家族等の面会の減少はありますが、今後新しい理念を目指し、家族との面会の機会が確保され、意見や要望を得やすい環境づくりを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議を設け意見を聞いている。出た意見に対してその都度適切な対処をしている。	施設長は年1回職員と面談し意見等聞いている。また管理者は月1回の会議時に職員の意見を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとりひとりのやりたい業務、取得したい資格などを聞き取る意向調査を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ひとりひとりに合った研修に参加を促している。業務を通じた研修ができるように、常に同じ職員が指導するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のグループホームとの情報交換を図っている。更に合同で行事を開催できるように話し合いをしようとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員を身近に感じていただくために、利用者様の声には必ず耳を傾け、話すことのできない方のことをよく観察できるだけ心情を汲むことに力を入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけて話し合うことで、良好な関係を築けるようにしている。ご家族様の役割についても、理解をいただけるよう説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の介護方法や利用しているサービスを聞き取ると共に、グループホームで提供できるサービス内容について説明している。その他受けられる可能性のある福祉サービスの案内も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできることや、昔できていたことを知り、同作業や似た作業を行ってもらっている。また良い関係を築くために、職員も一緒に作業を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様からご家族様に連絡を取りたいと申し付けられれば、なるべく取り次いでいただくようお願いしている。面会のときには利用者様の様子を細かく伝え、情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事には参加し、利用者様の友人や親戚と会い易い場を作っている。また育った町や思い出深い場所へドライブを兼ねて出かけられるよう支援している。	家族及び以前の職場等の友人が面会に来ていたが、最近は少なくなっている。事業所は、昔なじみの方への連絡や、理・美容及びかかりつけ医に対しても入居前と変わらぬよう支援を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事のときなど、利用者同士の相性を考慮しながら席を調節している。孤立する利用者様が出ないように、少人数での外出も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	生活の質の低下を防ぐために利用者様とご家族様と話し合いをし、できることはサービス終了後も継続していくように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度利用者様とご家族様の意向や希望をお聞きしている。職員間でも情報を共有し、サービスに偏りが無いよう努めている。	職員は、日々のケアから見たり聞いたりしたことや家族の意向を記録している。計画作成担当者は、日々の記録や毎月のモニタリングにより、利用者の思いを把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族様、関係者の方に、これまでの生活を詳しく確認している。趣味や苦手なこと、できることを把握した上でサービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一日の様子を記録し、心身状態の把握に努めている。変化する嗜好などにも気を配り、職員同士で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で変化があったときに対応できるよう、担当者会議を通して意見を出し合い計画を作成している。	月1回のカンファレンスにより介護計画を作成している。計画作成担当者は、モニタリングによる本人の意向をもとに現場の状況を分析し、内容の充実した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を記入したものを随時確認し、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	畑を作ったりドライブをしたり、花をつみにいく等、自然に囲まれた立地を活かしたサービス提供をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設で行うイベントにはボランティアの方を呼び、歌などを披露していただいている。また地域で行われる行事には積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に、利用者様それぞれのサービス前からのかかりつけ医で対応している。定期受診時はご家族様に付き添っていただき、緊急の場合は職員が指定の病院へつきそう。	利用者のほとんどが入居前のかかりつけ医の受診を継続している。かかりつけ医受診の際は、日誌や食事量・バイタルデータのコピーを家族へ渡し、受診時に役立つよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は随時配置していない。体調に変化があった場合はかかりつけ医を受診していただく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師や看護師とよく連携し、利用者様の様子の把握に努めている。また退院後も利用者様について相談できるように関係維持に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に、利用者様、ご家族様に事業所の方針を伝えている。重度化終末期の場合の住み替えなども説明し、支援している。	看取りは対応していない。入所時に重度化の際の方針を説明している。現在、法人の医師による定期的な巡回があり、重度化に際しては事前の把握状況を基に、特別養護老人ホーム等への紹介や入院について速やかに対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼して救急方法を指導していただいている。緊急時のマニュアルに沿って随時職員は訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。その際周知のために周辺の地域の方にも参加していただいた。	年2回の消防訓練を実施し、職員は必ず参加するようにしている。近隣に緊急時の応援を依頼済みだが、要請方法や協力内容は明確になっていない。AED設置や利用者対象の備蓄品を備えている。	非常時には、地域から頼られる存在となり得ることから、地域に貢献出来る内容のPRや事業所と地域との協力体制を明確にするマニュアル化等、双方向的な役割や関係の構築を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに特に気をつけている。接遇の研修会に参加し、人格の尊重に関して学んでいる。	法人内の研修会に参加し、人格の尊重等について学んでいる。受講した職員の報告書をもとに共有化を図っている。特に言葉に配慮すべく、大きい声を出す職員に対して、接遇・人格の尊重を含め、言葉使いやトーンについて管理者から指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるような言葉かけをするよう心がけている。普段の会話も多くし、利用者様のご意見を言いやすい雰囲気づくりにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度言葉をかけて意見を聞いている。利用者様の気分や体調に合わせて、職員の計画を変えていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える支援が必要な利用者様には、服を選ぶところから参加していただき、利用者様の自己決定を促すようにしている。散髪には馴染みの床屋や美容院へ行けるよう、ご家族様をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の場面で、野菜の下ごしらえなど、個々人の能力が活かせるように職員と共に用意していただく。配膳や食器洗いの担当も利用者様の間で決まっている。	利用者が食事前にテーブル拭きや配膳を手伝っている。畑では種蒔きから収穫までを利用者と一緒に行っている。毎月1回の外食(誕生日会)、ベランダでのバーベキューや管理者宅でピザパーティー等を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量、水分量を記録している。普段の食事だけで量がまかなえない場合は、ご家族様に好みを聞いて好きなものを用意するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要な利用者様には職員が口腔ケア、洗浄を行っている。自分のできる利用者様も、声かけ見守りを行っている。就寝前には毎日ポリドントにて洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの記録をつけている。その記録を見ながら、個々人に合わせた時間に声かけをして排泄を促す。紙パンツ等を使用している利用者様も同様にして、なるべくトイレに間に合うようにしている。	ヨーグルトや牛乳等を献立に取り入れ、自然な排泄が出来るように食べ物に気をつけている。また、入居時オムツを利用していた方がリハビリパンツに替えられた例もあり、トイレでの排泄習慣を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かす機会を自然に作るために、体操や掃除を習慣化している。便秘予防に適した食事、牛乳やヤクルトの提供をしている。便秘が酷い場合は医師に相談し薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調や気分の希望を聞き、柔軟に対応している。また、入浴剤を使ったりしてリラックスできるように工夫している。	週2回は、入浴できるようにしている。お湯は毎回入れ替えをして感染症予防に努めているが、給湯器の都合で1日3名までが限度となっている。家族が温泉に連れて行ってくれることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に昼寝などしていただき、職員は室温の管理などに気を配っている。夜間は寝具や衣類の調整を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ひとりひとりの処方内容を記録し一覧表を作っている。副作用なども記入し、処方内容に変更があった場合はその旨を申し送りノートに記録し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑を作ったり裁縫をしたり調理の手伝いをしていたり、個人に合った役割を提供し、生活に張り合いが出るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域や法人内のイベントには積極的に参加している。また、ご家族様にも参加していただく外食も企画している。普段は散歩や買い物や外食、時には市外へのドライブもしている。	利用者の通院は家族が対応しており、帰りには外食やお墓参り等に行っている。毎月1回は必ず行事として外食を実施している。食材の買い出しには利用者も同行するようにしている。法人の他施設の行事にも積極的に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物にでかける際に利用者様が持っている、能力に応じた支援、支払い方法を取っている。それ以外は財布を施設で預かり、出納帳を記入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望でご家族様や友人への電話ができるようにしている。ご家族様にはなるべく電話に対応していただけるよう協力をお願いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感はもちろん、季節感を感じられるような飾りや花などで居心地の良い空間づくりを心がけている。広いベランダを活かして、利用者様の体調や気分に応じてお茶会などを催している。	天井の高さ、採光、大きな窓等構造の工夫に加え、共用空間は清潔に保たれ心地よい。また、レクリエーション活動で制作した季節毎の作品や、行事の写真を壁に掲示し、季節感や生活感の演出に一役買っている。利用者の表情は明るく生き生きしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルと座布団を畳のスペースに設けている。小さい空間なのでひとりまたは少人数の気の合う利用者様同士でいられるような場所として使っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや小物入れ、椅子などは自宅を使っているものを持参していただいている。なるべく自宅にいるような雰囲気の中で暮らしていただけるよう、写真などの持ち込みも提案している。	採光もよく、居室内は整理整頓され清掃が行き届いており、居心地よく感じる。居室への持ち込み物は適度で、快適に過ごせるスペースの確保ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる活動は継続して行えるように支援している。今できないものでも、生活歴を見ながら、または話を聞きながら、昔できたことを再度挑戦できるような支援も行っている。		